

# 研究員 の眼

## ヘルスケア・バイオ系ファンドが復調？ ～2017年2月の投信動向～

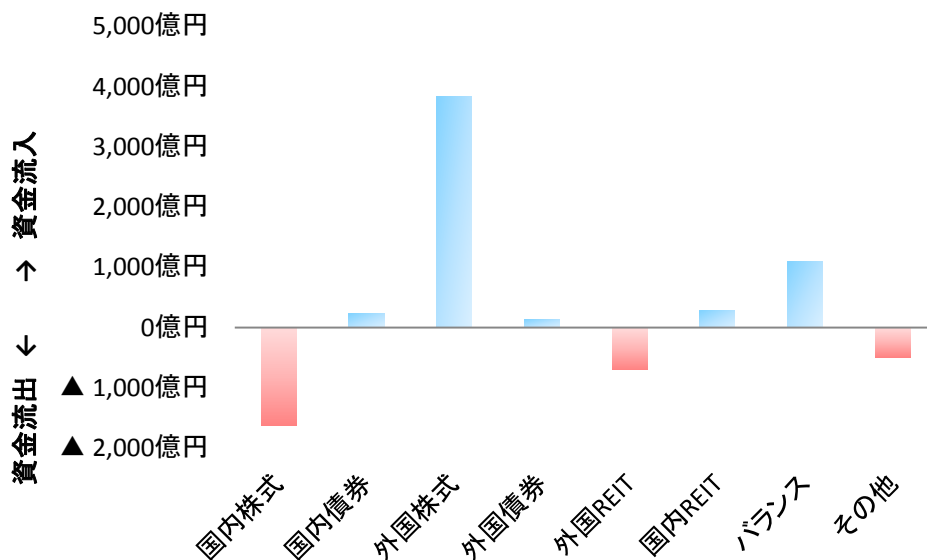
金融研究部 研究員 前山 裕亮  
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

### 国内株式と外国 REIT の資金流出が続くが金額は縮小

2017年2月の国内公募追加投信（ETFを除く）の資金の流出入の推計値を見ると、1月から引き続き国内株式と外国 REIT の資金流出が大きかった【図表1】。ただし、流出金額自体は1月と比べてやや小さくなった。その一方で、外国株式に大きく流入し、金額は4,000億円に迫った。

国内株式については、アクティブ・ファンドからの資金流出は1,400億円強と、1月と比べて100億円ほど多かった。一方、パッシブ・ファンドからは1月に700億円弱資金流出していたが、2月は200億円強の流出に収まった。3月に入っても国内株式は上値の重たい展開が続いているが、パッシブ・ファンドを中心に資金流出が収まっていくか注目である。

【図表1】2017年2月の国内追加型投信の推計資金流出入



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者集計。  
各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

## 新設の AI ファンドに人気集中

個別ファンドへの資金流入を見ると、上位ファンドのうち5ファンドが外国株式の新設ファンドであった【図表2】。特に、1位と5位の「GSグローバル・ビッグデータ投資戦略」が合計で1,400億円以上、2位と3位の「野村グローバルAI関連株式ファンド」が合計で1,600億円以上の資金流入であった。この2つのAI（人工知能）関連ファンドに3,000億円以上の資金流入があり、2月の外国株式ファンドの資金流入の大半を占めていたといえる。いかに投資家の注目が高いかが分かる。その他については、分配金が期待できるファンドへの資金流入が1月から続いていた。

ここでAI関連ファンドと言っても、2つのファンドで中身は大きく異なる。「GSグローバル・ビッグデータ投資戦略」は、投資する銘柄を決める際にAIやビッグデータ解析を活用している。

その一方で、「野村グローバルAI関連株式ファンド」は、AIなどのテクノロジー系の企業に投資するテーマ型の株式ファンドといえる。2つはまったく異なる運用スタイルであり、一緒にAI関連ファンドと認識しないほうがいいかもしれない。

## ヘルスケア・バイオ系ファンドのパフォーマンスが良好

2月にパフォーマンスが良好であったファンドを見ると、上位ファンドの多くが国内外のヘルスケア・バイオ系企業に投資するファンドであった【図表3】。特に、2月はやや円高が進行したため為替ヘッジをしているファンドのパフォーマンスが良好であった。

【図表2】2017年2月の推計純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	2月の推計純流入	純資産 2月末時点
1位	GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 Bコース(為替ヘッジなし)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	1167 億円	1167 億円
2位	野村グローバルAI関連株式ファンド Bコース	野村アセットマネジメント	870 億円	870 億円
3位	野村グローバルAI関連株式ファンド Aコース	野村アセットマネジメント	776 億円	778 億円
4位	LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	525 億円	4109 億円
5位	GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 Aコース(為替ヘッジあり)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	267 億円	268 億円
6位	新・ミューズニッチ米国BDCファンド(為替ヘッジなし・毎月分配型)	日興アセットマネジメント	243 億円	243 億円
7位	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	フィデリティ投信	241 億円	8978 億円
8位	みずほUSハイイールドオープン Bコース(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	183 億円	1344 億円
9位	米国インフラ・ビルダー株式ファンド(為替ヘッジなし)	大和証券投資信託委託	179 億円	179 億円
10位	ニッセイグローバル好配当株式プラス(毎月決算型)	ニッセイアセットマネジメント	158 億円	963 億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。ETF、SMA 専用ファンドは除く

【図表3】2017年2月の高パフォーマンス・ランキング

順位	ファンド名	為替ヘッジ	運用会社	2月の収益率	過去1年 収益率	純資産 2月末時点
1位	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース	あり	野村アセットマネジメント	10.5 %	16.7 %	180 億円
2位	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース		野村アセットマネジメント	9.5 %	16.0 %	191 億円
3位	資源ツインα ファンド(通貨選択型)トルコリラコース	---	T&Dアセットマネジメント	9.0 %	-9.5 %	11 億円
4位	ピクテ・バイオ医薬品ファンド(1年決算型)円コース	あり	ピクテ投信投資顧問	9.0 %	12.6 %	15 億円
5位	野村ピクテ・ジェネリック&ゲノム・ファンド		野村アセットマネジメント	8.3 %	4.7 %	74 億円
6位	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Aコース(為替ヘッジあり)	あり	三菱UFJ国際投信	8.2 %	9.3 %	27 億円
7位	ピクテ・バイオ医薬品ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなしコース		ピクテ投信投資顧問	7.9 %	12.4 %	214 億円
8位	メディカル・サイエンス・ファンド		アセットマネジメントOne	7.9 %	10.9 %	646 億円
9位	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Bコース(為替ヘッジなし)		三菱UFJ国際投信	7.4 %	9.0 %	118 億円
10位	日興ブラックロック・ヘルスサイエンス・ファンド(為替ヘッジあり)	あり	ブラックロック・ジャパン	7.4 %	8.6 %	11 億円

(資料)Morningstar Direct を用いて筆者作成。月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

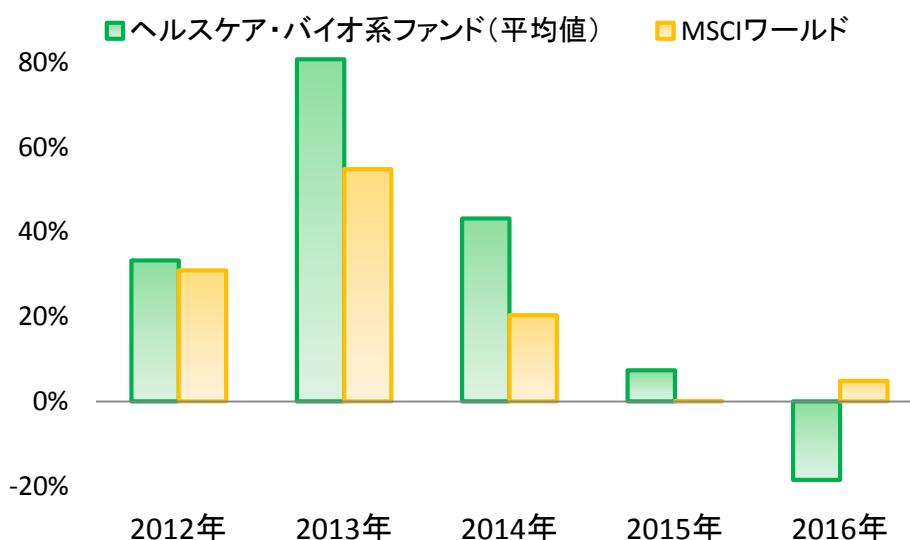
上位ファンドの2月の収益率は7~10%となっていた。グローバル全体の株価動向を示すMSCIワールド・インデックスの収益率が2%程度であったことを踏まえると、2月はヘルスケア・バイオ系企業の株価上昇が大きかったことが分かる。

過去1年の収益率に眼をやると、ヘルスケア・バイオ系で為替ヘッジしていないファンドは16%以下となっていた。一方でMSCIワールド・インデックスは21%程度であった。ヘルスケア・バイオ系の株式ファンドは、2月に大きく上昇したものの、過去1年だと市場全体に劣後していた。そのため、2月の上昇は足元出遅れていたヘルスケア・バイオ系株式に、買いが入った結果に過ぎないと見ることもできる。

ヘルスケア・バイオ系ファンドの長期のパフォーマンスはどうだったのか。そこで、2月末時点で純資産残高が10億円を超えていたヘルスケア・バイオ系ファンドの中で、2月にパフォーマンスが良好で設定が2014年以前のもの（【図表3】の4ファンドを含む）の年次収益率を集計した。なお、集計対象は為替ヘッジしていないファンドに限定し、比較のためMSCIワールド・インデックスの年次収益率も合わせて示した【図表4】。

2013年と2014年はMSCIワールドと比べてヘルスケア・バイオ系ファンドの収益率が高く、投資家の期待に応えるパフォーマンスを上げていたことが分かる。2015年はやや失速し、2016年はMSCIワールドに劣後し、収益率自体もマイナスであった。足元では米トランプ大統領が薬価改定について言及するなど不透明感がましているが、2013年や2014年のように再び力強く上昇するのか、それとも一時的な見直しによる反発で終わるのか、今後の動向が気になるところである。

【図表4】ヘルスケア・バイオ系ファンドの年次パフォーマンス



(資料)Morningstar Direct を用いて筆者集計。MSCIワールドは円建ての税引前配当金込。

加えて、見てきた過去のヘルスケア・バイオ系ファンドのパフォーマンスは、注目が集まっているAI 関連ファンドに対して参考になるのではないだろうか。テーマ型の株式ファンドといえども長期的に安定して市場平均を上回ることが難しいことや、投資タイミングによっては元本を毀損する可能性があることが示唆されるからである。テーマ型ファンドへの投資は、それらを踏まえた上で検討した方がよいだろう。

---

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。